

令和5年度

# なは女性センター 利用者連絡会議

なは女性センター利用者の皆様を対象に施設利用の適正化と、利用団体の交流を図るために開催します。利用登録の更新手続きや新規利用希望団体へ施設利用説明等を行います。

昼・夜2回開催しますので、どちらか都合の良い時間帯に、団体の代表者(または代理人)は、必ずご参加ください。

日時：4月19日(水)

①午後2時～3時半

②午後7時～8時半

\*事前申込は必要ありませんので、①か②のご都合のよい時間にお越しください。

場所：なは女性センター 第2学習室

## 学習室のご利用について

利用日の前月の初日から受け付けます。(仮予約不可)

(例：5月10日利用の場合、4月1日午前9時受付開始)

\*1日が日曜日・祝日の場合は、翌日2日に受け付けします。

(1日が土曜日の場合は、受け付けています)

午前9時に、申請の順番を抽選し、番号順に希望日を伺います。

利用許可申請書を直接「なは女性センター」にて、ご記入ください。

ただし、事前に利用団体登録が済んでいる団体に限りです。

利用時間 \*準備から後片づけを含みます

月～金曜日

①朝の部 9:00～12:00

②昼の部 13:00～16:30

③夜の部 17:00～20:30



### ★第1学習室(45.4m²)

10人～15人ぐらいの会議に  
むいています。

(テーブル5台・イス20脚)

土曜日

①朝の部 9:00～12:00

②昼の部 13:00～16:30

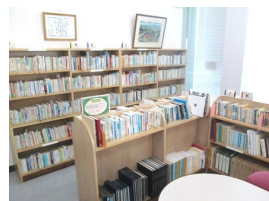


### ★第2学習室(110.7m²)

学習会や軽い運動をする  
場として利用できます。

(テーブル20台・イス80脚)

## 資料室・交流室のご利用について



### ★資料室

県内外の女性  
情報誌・紙や  
絵本コーナー  
もあります。

女性問題やジェンダーに  
関する資料・図書の貸し出し、  
閲覧ができます。

図書の貸し出しをご希望の方は、  
「図書カード発行申込書」をご提出後、  
お一人2冊・2週間貸し出しできます。



### ★交流室

情報交換の場  
としてご利用  
できます。

## なは女性センターを利用される皆さまへ

体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。なお、ご利用の際のマスク着用につきましては、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に沿い、個人の判断に委ねることいたします。

# 「誰もが生き生きと暮らせる社会へ」

## 男女共同参画施策の推進にさらなる意欲

知念覚市長は2月5日、那覇市内で開かれた那覇市女性ネットワーク会議(通称・あけもどろ女性の会)の新春の集いに参加し、男女共同参画や女性登用に関する方針について講話しました。知念市長は冒頭、性の多様性やDV対策などに取り組んできた成果を報告し、「制度の整備は進んできましたが、まだまだ課題が横たわっており継続的に取り組んでいかないとはいけません。個性と多様性に満ちあふれた那覇市にしたい」とさらなる意欲を語りました。



▲講話中の知念市長



▲知念市長に花束を贈呈する副会長の仲盛光子さん

**「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言**(レインボーなは宣言)を掲げる那覇市の取り組みについて、知念市長は2016年に「那覇市パートナーシップ登録」がスタートし、2022年には「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」へと拡充した経緯を説明。「誰もが生き生きと暮らせる社会を目指し、さらに一歩進んでいる」と振り返りました。一方、首相秘書官(更迭)が同性婚をめぐる「見るのも嫌だ」などと発言したことに対し、知念市長は「日本はまだ(LGBTQへの差別から)脱し切れていないのかと、私も非常に意気消沈した」と語り、性差を越えた人権意識の重要性を強調しました。

**ジェンダー平等な社会の実現**を目指し、第4次那覇市男女共同参画計画(なは男女平等推進プラン)の推進・見直し、ジェンダー表現に関する講座、男性育休を推進するトークイベント、若年妊産婦を取り巻く現状についての講演会、DVを含む女性への暴力防止に関する各種取り組みを展開していることも紹介しました。その上で、市民生活には依然として深刻な問題が横たわっている現状に触れ、「行政を預かる者として、継続的に取り組まねばならないと思っております」と話しました。



**女性登用**について第4次那覇市男女共同参画計画では、市職員における女性管理職の割合の2028(令和10)年度目標値は20%と掲げています。知念市長は「消防職を含め令和4年度17.8%、5年前に比べ約3%増。消防を除くと令和4年度は21%。行政職に関しては登用が進んでいる傾向がみられます」と現状を示しました。

**女性活躍推進**については、民間企業が女性登用や働きやすい仕組みづくりに取り組んでいることを評価し、「各企業が女性の登用を進める中で、いろいろなメリットが出てくると思う。楽しんで注視しているところです」と語りました。また、次年度新たにスタートする事業を、女性職員がけん引している事例などを挙げ、「女性がどんどん活躍している。情報の分析力、新たな視点があります」と期待を込めました。

**女性の社会参画**においては、「地域の環境整備が重要です。待機児童解消は城間市長の1丁目1番地の政策だったので、私も副市長時代から全力を傾けてきました。待機児童は現在ほぼゼロになっています」と報告しました。一方、沖縄でも今後、少子化が進むことを踏まえ、「民間保育園の経営危機が心配される。しっかり対応しながら子育てと仕事を両立しやすい環境をつくりあげていきたい」と述べました。



**小学校区を軸とした「協働のまちづくり」**を政策に掲げていることも強調し、「地域包括ケアシステムが機能し高齢者が住みやすい地域は、子どもたちにとっても住みやすい地域になる。みんなで一緒につくりあげていきたい」と理解と協力を呼び掛けました。



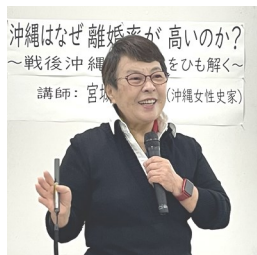
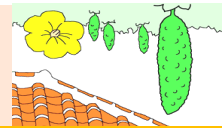
▲那覇市女性ネットワーク会議の皆さんと知念市長(写真中央)

講座を  
終えて

講座名:「沖縄はなぜ離婚率が高いのか」～戦後沖縄女性史をひも解く～

開催日:2023年1月28日(土) 午後2時～4時 参加者:37人

講師:宮城 晴美さん(沖縄女性史家)



▲講師の宮城 晴美さん

沖縄県は、明治以来離婚率が高いといわれてきましたが、1985(昭和60)年以降、全国1位を独走しています。戦後の女性史や文化、風習を紐解くことで、何らかの理由が見えるのではないかと考え、沖縄女性史家の宮城晴美さんを講師にお招きしました。

宮城さんはまず、琉球王国時代の社会構造や慣習を遡り、離婚に寛容であった背景を分析しました。1つ目のキーワードは「年中行事」でした。その当時、女性は「をなり(うない=姉妹)神」とされ、呪術的に「えけり(兄弟)」や一族を守る役割があったそうです。

そのため、女性は結婚しても生家と婚家のつながりが求められ、両家の祭祀に携わっていました。娘がいないと年中行事や祭祀を円滑に執り行うことができません。つまり、娘がいらない家は「をなり神不在」という不都合が生じるため、「極端に言えば、娘の離婚を歓迎する面もあったのではないかと」語りました。

2つ目に「家父長制度」の問題が見えてきました。琉球王国時代、首里・那覇の士族たちには家父長制的な門中制度があり、妻は夫に従属する存在でした。一方、大多数の庶民の暮らしは「村」を中心とした村落共同体が軸であり、夫婦関係は相対的に平等で女性は「家」に縛られることはありませんでした。その意味からも、女性だけが忍従を強いられたり離婚が負い目になったりすることが少なかった事情が伺えます。

そんな「男女対等」だった庶民の暮らしに変化をもたらしたのが、「明治民法」の適用でした。明治政府は1879年の「琉球処分」で琉球国を併合し、沖縄県としました。その後の明治民法施行により、沖縄の近代農村にも「家」を重視する家父長制がもたらされたのです。

加えて、戦後の沖縄はアメリカ統治下に置かれたため、日本国内で1948年に施行された男女平等の新民法が長く適用されませんでした。その後、婦人連合会会長の竹野光子さんらが女性の権利獲得を訴え、新民法施行に向けて運動を展開。1957年1月1日ようやく、沖縄に新民法が施行されたのです。

宮城さんは、政治や戦争に翻弄された女性たちの暮らしや権利を紐解いた上で、現在の離婚に関する統計を報告しました。1984年度の相談では、家庭問題が1位(夫の暴力、浮気、酒乱、生活費を入れない)、離婚相談が2位。近年の離婚理由も「夫の暴力、浮気、アルコール問題、生活費を入れない」など、離婚原因はさほど変わらない現状が示されました。

一方、統計に表れない沖縄的な特徴としては「ギャンブル依存(夫と妻の双方)」「男子の出生を要求する夫方親族への疲れ」「夫(長男)の給料の多くが実家へ」「娘たちがいるのに、夫方の親戚の男子を養子にする」などの事例が挙げられました。

宮城さんは、長男や男子を優遇する「伝統文化」的な課題や、財産やトートーメー継承を長男にこだわる「崇り思想」、「地域・家庭の行事は嫁の役割」とする風習が、未だ女性たちを苦しめている現状を強調。宮城さんは、「今日は沖縄の女性史の視点から離婚の問題を見てきました。実際の日常生活では何が問題なのか、現状や課題をそれぞれの立場で考え、どうすればいいのかを一緒に考えてまいりましょう」と呼び掛けました。



▲講座の様子

応援  
映画

明治大正という、女性が一人の人間として尊重されることのなかった時代に、女子教育に力を注ぎ、女性解放運動に生涯をささげた矢嶋梶子。その波乱の生涯を描いた三浦綾子の同名小説を映画化。

かじこ

## 「われ弱ければ 矢嶋梶子伝」

会場:沖縄県男女共同参画センター ていりるホール

開催日時:2023年4月1日(土)

①10:30～映画『われ弱ければ 矢嶋梶子伝』

②14:00～映画『山本慈昭 望郷の鐘 満蒙開拓団の落日』

③18:00～映画『われ弱ければ 矢嶋梶子伝』

開催日時:2023年4月2日(日)

①10:30～映画『われ弱ければ 矢嶋梶子伝』

②14:00～映画『母 小林多喜二の母の物語』

当日券1500円  
前売り券1200円  
チラシ持参割引1300円  
大学生1200円/中高生1000円  
障がい者1000円/小学生500円



原作:三浦綾子 監督:山田火砂子  
出演:常盤貴子・石黒賢・渡辺いっけい・竹下景子ほか  
主催:株式会社現代びるだくしょん 後援:那覇市

# 相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

 **098-861-7515**

月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

## 「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。

### 性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

### 周辺地図



### 駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は有料です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

### ☆なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間が1時間に満たない場合は1時間として計算。	

## 那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録

「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」は、市長がパートナーシップ・ファミリーシップの関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、「登録証明書」及び「登録証明カード」を交付するものです。

登録数 **49** 組

2023年3月15日現在

\*これまでに登録された方へも「登録証明カード」の交付ができます。

- 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取り組みです。登録によって何らかの法律上の効果(相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

### ■お問い合わせ・申請の予約

TEL. **098-951-3203** ◆月～金:午前9時～午後5時

\* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始(12/29～1/3)を除く

## レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた誰でも参加できる交流会です。

開催日時: 2023年3月25日(土)午後2時～4時

場所: なは女性センター(なは市民協働プラザ1階)

テーマ: 「好きな本(LGBTQ+関係・絵本や漫画OK)を持ち寄って語ろう」

主催: 市民団体ていーだあみ

メール: [tiidaami.okinawa@gmail.com](mailto:tiidaami.okinawa@gmail.com)

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。



## with you おきなわ

沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター

はやくワンストップ



TEL # **8891**

24時間

365日



※繋がらない場合は、098-975-0166へ

性暴力の被害にあわれた方の意思を尊重しながら、医療的支援を含めた必要な支援を行っています。24時間365日体制で相談を受け付けていますので、いつでも相談できます。

### ◆なは女性センター講座について

\*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、申込みQRコードでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

### お問合せ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)

TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204

Email: [s-heidan002@city.naha.lg.jp](mailto:s-heidan002@city.naha.lg.jp)

開館時間

月～金: 午前9時～午後9時

土曜日: 午前9時～午後5時

休館日

年末年始(12/29～1/3)

日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)



なは女性センター  
メール



なは女性センター  
ホームページ



Facebook